

私の病気は肺カルチノイドでした。

昨年(2015年)の3月に手術を受けましたが、病名が告げられたのは手術3週間後のこと。レントゲン撮影では写らない心臓の陰にあたる場所に、直径2センチほどの腫瘍ができていました。CTによって発見され、当初は小細胞がんなのか、カルチノイドなのか、判断つかずの状態でしたが、急いだ方が良いとのことですのですぐに手術をしていただきました。それまでは、肺に腫瘍ができていることはおろか、咳が出るとか息が切れるなどの自覚症状は一切ありませんでした。

では、なぜこの病気を発見するに至ったかと申しますと、病気発覚の前年(2014年)の12月頃から原因不明の足の浮腫と体調不良に悩まされるのがきっかけでした。病院も幾つか巡りましたが、特にこれといった原因にも行き着かず、不安な日々を過ごしていました。なのに病状はどんどん悪化し、不整脈や高血圧、ムーンフェイスや睡眠障害など、もう毎日が辛いだけの日々になってきました。そんな頃に、かかりつけのお医者様に、ひょっとしたら大変な病気かも、ということで大きな病院を紹介していただき、できるだけ早く診てもらえるよう予約まで取っていただきました。

そう、当初疑われた病名は、クッシング病でした。脳下垂体に腫瘍があるかも、ということで受診しました。でも、脳のMRIにも腫瘍は映らず、クッシング病独特の身体的特徴がそんなに出ていないということで、当初はクッシング病の可能性を否定されました。また私の体調不良は原因不明の病になってしまったのかと、絶望したのを覚えています。

しかし何度か通院しているうちに、お医者様も私の状態の悪さを気にして、検査入院を勧めてくださいました。この頃、私の身体は自分の作り出す副腎皮質ホルモンでステロイドまみれになっていました。感染症にかかったりしただけでも、危険な状態だったかもしれません。

入院してからは検査の毎日です。病名は異所性クッシング症候群。どこかに異常にホルモンを作り出す腫瘍がある、それを突き止めるための入院でした。そして、そこでようやく疑わしいものが発見されました。それが肺の腫瘍=カルチノイドでした。

発見されてからの展開は早いものでした。検査入院のまま、転移などないかの全身検査、内分泌内科から呼吸器外科にお引越しして手術。

術後の通院にて。ようやく、あなたの腫瘍は肺カルチノイドと言って、比較的穏やかな腫瘍ですが、ステージは3A。転移の可能性がないとも限らないので肺がんに準じて抗ガン剤治療をしましょう、と。

入院中を含め、インターネットなどで自分の病気のことをかなり検索しました。そこで、まずこの病気についての情報量の少なさに驚いたのです。カルチノイド=神経内分泌腫瘍であることや、この腫瘍は身体のいろんな部位で発症すること、治療法が外科手術以外には確立されていないことなど。

私もカルチノイドに抗ガン剤があまり有効ではないことは知っていましたが、断る勇気はありませんでした。でも受けなくて後悔するようなことになっては元も子もないと思って

受けました。辛い治療でした。

そして、術後 1 年半、まだまだ経過観察中ですが、現在のところは異常なく、元気な状態に戻りました。入院中に調べに調べた情報のなかに、しまうまサークルの方々の活動もありました。退院後、今でも行ける時には参加させていただいております。私の経験も、何かのお役に立てれば嬉しく思います。